

「おねがいゆるして、ゆるしてください」 小さな命はどうすれば救えたのか？

「きょうよりも あしたは もっとできるようにするから、おねがいゆるして、ゆるしてください」東京都目黒区で5歳の女の子が虐待死し、両親が逮捕された事件で、女の子が生前にノートに覚えたてのひらがなで一生懸命につづっていたメッセージです。どんな想いでこれを書き、死んでいったかと思うと、本当に胸がつまります。

救えたはずの命、社会がなぜ受け止めることができなかったのか、児童相談所の体制、警察との全件共有、親権停止、里親や養親の拡充など、制度を変えるための構造的な再発防止に早急に取組む必要があると指摘されています。

児童虐待は重大な人権問題

最も愛されるはずの親から虐待された子どもは、心に大きな傷を残し、情緒面や行動面への問題や、社会性や対人関係性に困難を抱える場合も少なくありません。

虐待する親は、子どもを自分の所有物としてしか見ていないことが多く、子どもが個人として持つ幸せで健やかに生きる権利を著しく侵害しています。児童虐待は、重大な人権問題であるという認識が必要です。

大人の義務とは

子どもの成長について、親は必要な保護の責務を負うとともに、一人の人格として尊重し、地域社会はこれを支援していかなくてはなりません。

虐待を受けたと思われる子どもを見つけた時は躊躇せず通報や相談をしてください。そして、親として、地域の一員として子ども達とどう向き合うのか、子どもの人権とは何なのか。この事件をきっかけに、しっかり考えるべきではないでしょうか。